



後期はじまる

あっという間に前期も終わり、今日から後期である。目の前には科目選択（進路選択）もあるが、年明けには修学旅行や最後の球技大会もあるしで、なかなか重い意味をもつ6ヶ月になるに違いない。

考査のたびごとに「次の考査は頑張ろう」と考える人も多いようだが、考査なら「次の」はあるが、2年生の後期は（よほどのことがない限り…笑）「もう一度」とか「次の」はない。つまり、この6ヶ月を後悔なく過ごすことが、来年一年を後悔なく過ごすための、そして、さらに大げさに言えば、今後続く長い人生を後悔することなく生きていくための、その大前提になるということだ。その重い意味をもう一度しっかりと認識し、各自後悔することのない後期を送ってほしい。

こんな風に科目選択（進路選択）のことを書くと、しっかり「自分」で決めなければならないと考えて、個人の方に意識が向いてしまいがちだが、そんな時ほど、クラス全体のことも視野に入れてほしいということを担任として言っておきたい。もっと簡単に言えば、授業を大切にしてほしいということだ。

例えば、自分は文系だと決め、さらに入試科目では生物基礎と地学基礎を選択しようと考えている人にとっては、今勉強している物理基礎や化学基礎は、「不必要な科目」に感じられても仕方ない部分もあるだろう。同じく、理系を志望し、地歴の入試科目として地理を考える人にとっては、世界史が重たく感じられるだろうことも分からないわけではない。しかし、だからといって授業に集中できなくなったり、他教科の勉強をしたり（あるいは、予備校のテキストを勉強したり…）す

るのは決して許されることではない。

何度も繰り返し伝えているように、現役生にとっては学校での生活、学校での学習が受験に向けての基本となるわけだから、それを先ず充実させようとする姿勢がないかぎり、決してイイ結果はついてこない。日比谷生を14年も見続けて、担任も3回目、そして、毎年3年生の授業を担当している私が言うのだから本当である。その基本が授業であることは言を俟たないであろう。各担当の先生方に気持ちよく授業をやっていただくと、そして、毎時間毎時間、それぞれの先生方がお持ちの最高のパフォーマンスを引き出すことが大切なのである。

自分は世界史が必要ではなくても、世界史を必要とする人は必ずいる。理系を選択する諸君にとっては、物理基礎と化学基礎は必須科目といっても過言ではない。とすれば、その授業で最高のパフォーマンスを発揮していただくためにも、入試でその科目が不必要かも知れないと考えている人の協力が必要になる、つまり、いい加減な態度で授業に臨み、授業の雰囲気や先生方のやる気を喪失させるようなことがあってはならない、ということだ。そして、こういうところで、クラスの本当の力が試されるのである。

三行事でイイ結果を残すことも大切だが、同時に、卒業の際に自分の進路をしっかりと切り拓いていることも大切だ。進路を切り拓く基本は「自分」であるが、その自分は「クラス」の中で他の存在とともに成長するのである。その意味も、後期が始まる今日、もう一度噛みしめてみてほしい。